

平成30年度
戸田市まち・ひと・しごと創生
総合戦略効果検証会議

提 言 書

戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議

平成30年12月

目次

1	提言に当たって	1
2	各事業に対する意見	1
	（1）住宅政策事業	1
	（2）継承者育成支援事業	2
	（3）多世代交流ひろば事業	2
3	まとめ～指標に対する事業の有効性～	4
	<参考資料>	5
	1 戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議要綱	5
	2 平成30年度戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議委員名簿 ..	6
	3 会議開催日	6

1 提言に当たって

私たちは、戸田市が進めている「戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」について、市長からの依頼を受け、平成29年度に実施した事業の効果等について意見交換を行いました。

本会議は、市民、まちづくりに係る団体等の関係者、産業関係者、学識経験者、金融関係者により構成され、それぞれの立場から多様な意見が出されました。

本会議では、平成29年度に実施した事業のうち、国からの交付金¹を受けた事業等について、検証を行いました。概ね、各事業が順調に進められているものと考えますが、今後、より効果的な事業となるよう、さらに取組みを発展させていくことが期待されます。

2 各事業に対する意見

本会議で検証した3事業について、会議における発言に基づき意見を整理しました。既に十分取り組まれている内容もあると思われませんが、改めて重要性等を認識いただくとともに、今後の事業の改善ポイントとして活用してください。

(1) 住宅政策事業

①事業に対する評価、今後の事業展開に向けた意見等

- ・空家バンクを運営していく上で、空家物件の所有者に登録してもらうことへの意識付けが大事であると考えます。
- ・子育て世帯に向けて住宅を提供していくことは、長期的に住んでもらえる確率が高まり、結果として転出抑制対策となると考えます。
- ・戸田市は、教育に手厚いイメージがあるので、まちづくりの観点からも、教育環境と連動した事業を行った方がよいと考えます。
- ・住みたい場所に選ばれる理由として、地域のブランド力が大事であると考えます。
- ・民間事業者とタイアップして、まちのイメージを作ってはどうかと考えます。
- ・戸田市は利便性が良い、住みやすい、子育てにはよい場所ですが、これといった観光資源が無く、市のイメージが浮かびにくいと感じるので、「戸田市といえばこれ」というように、イメージできるものが欲しいと思います。
- ・市内には、商業で利用できる空家が少ないと感じます。店を持ちたい方は多く、ニーズはあると思われまます。例えば、住むには難しい物件を商店として使用させたり、市が補助することで安く貸し出せたりする制度があるとよいと考えます。
- ・転出の理由としては、「家が手狭になったから」という理由が多いことから、空家バンク構築により、戸田市内での住み替えを行ってもらい、転出抑制につなげてもらいたいです。
- ・空家において、利活用可能な物件の対応よりも、苦情のある物件に対処する方が、市の事業としての優先度が高いと考えます。

¹ 地方創生推進交付金

②まとめ

・今年度の取組みとして、空家バンクの設計をし、運用していくという中で、今回出た意見を参考にしてもらいたいです。

・当該制度の課題をしっかりと把握していることから、今後の事業の拡充が期待できません。

(2) 継承者育成支援事業

①事業に対する評価、今後の事業展開に向けた意見等

・戸田市の制度融資については、制度そのものに問題はありませんが、現行の高い金利設定では、銀行から貸し出すことが困難となっています。現状としては、金利は1%を下回る貸し付けがほとんどです。しかしながら、市の制度融資を必要としている企業はあると考えられるので、セーフティネットとして継続してほしいと考えます。

・経営革新計画について、指標と目標に設定している相談件数とは、結果ではなく通過点であるので、相談を受けて結果としてどうなったのか等、有効性を見るべきであると考えます。

・全国の商工会で、経営革新計画の設定目標値を3年連続で達成している商工会はごく一部であり、その中に戸田市商工会が含まれています。

・経営革新計画が認定されたことによる成果で見れば、売り上げが伸びた等の実績が現れています。

・事業を行う身として、担当課においては、支援が充実しており、また、その支援に関する情報発信も役立っています。

②まとめ

・市が行う事業としての成果で見れば、商工会に補助をし、その商工会が成果を上げているという点で、事業が有効であると言えます。

・相談予備軍や相談に繰り返し来ている方に対し、過去の相談に来た方の相談内容を発信していくのも大事であると考えます。

・人材不足により、業界が縮小してしまうので、人材を育てていくことが重要です。

・海外留学生等の就労について、先進国の情報も踏まえ、研究すべきであると考えます。

(3) 多世代交流ひろば事業

①事業に対する評価、今後の事業展開に向けた意見等

・市において講座等の開催の働きかけやSNS等での広報活動をしてもらえるなどの、事業内容の周知が不足していると感じます。

・多世代というテーマで事業を行うのは、とてもハードルが高いと考えます。より一層の工夫が必要です。

・利用する方へ、施設の方から紹介があるなど、「つなぎ役」が必要と考えます。

・スポットに訪れるきっかけとして、常時やっているイベント等があるとよいです。

・スポットには、楽しさがないと、人は来ないと感じます。また、単身(老)世帯の方が時間を指定することで、来てもらうような仕組みがあると、交流につながるのではないかと考えます。

- ・オープンスペースを週末だけ使うようなシェアリングを行うことで「たまり場」を作ってはどうかと考えます。
- ・スポットでの企画開催は、毎日ではなく、特定の日でもよいと考えます。
- ・わいわいスポットの設置数拡大の取組みについて、設置場所を見つけて、様々な利用の仕方によって、充実させたらよいと考えます。
- ・わいわいスポットの1か所において、集中して事業を行い、成功事例を作るのもよいと考えます。
- ・設置個所に偏りがあるので、市の西側にも設置があるとよいです。
- ・わいわいスポットは、交通の便が良くないと行きにくいので、空家政策とも連携し、場所探しにおいて、使い勝手の良い場所があるとよいです。
- ・利用者であるサークル団体では、使える施設が不足しているとの声があり、ニーズはあると思うので、ニーズを捉えた場所の選定や斡旋をしてほしいです。
- ・ガレージを改装してライブハウスをやっている所もあるので、特徴的な打ち出し方をするとよいのではないかと考えます。
- ・戸田は工場や倉庫が多いことから、家族が見学・体験できるようなオープンファクトリーがあるとよいと考えます。
- ・わいわいスポットのメリット・デメリットをもっと明確にすべきと考えます。
- ・わいわいスポット登録のデメリットが多く、使う側はメリットを感じていない状況です。例えば、利用が有料となっている施設においては、わいわいスポットとしての利用者は無料にするなどのメリットがあるとよいです。
- ・チラシには、施設への案内しか記載がないので、施設と利用者側のマッチングを考え、コンセプトが合う一定の条件をクリアした人等に利用させるべきであると考えます。また、施設によっては、コンセプトのミスマッチが起こりえるので、行政が入っていくべき部分と考えます。
- ・市でもやっている事業として、認知症カフェがありますが、例えば健康増進、医療関係等と連携し、進めてもよいのではないかと考えます。
- ・地域貢献している団体に積極的に案内する等、わいわいスポットの利用者を増やす取組みを行った方がよいと考えます。

②まとめ

- ・協働という観点でもっと情報収集を行ってほしいです。
- ・今日出た意見を具体化し、検討を行ってほしいです。
- ・企画開催実績「0」については、「1」としてほしいです。
- ・担当課にて1名は特命でやる人を設置する等、人員について検討してほしいです。
- ・評価としては、もう少し頑張ってもらいたいということを添えて、指標に対して「有効だった」とします。

3 まとめ～指標に対する事業の有効性～

各事業には、達成すべき目標となる指標及び目標値が設定されています。本会議では、目標値に対する実績値を踏まえ、各事業が目標達成に有効であったかどうか評価しました（指標に対する事業の評価）。評価に当たっては、本会議において、各事業における意見交換の内容を総合的に勘案し、判断しました。

各事業の評価は下表のとおりです。

表1 事業別「指標に対する事業の評価」

No	事業名	指標に対する 取組の有効 性 ¹
1	住宅政策事業	1
2	継承者育成支援事業	1
3	多世代交流ひろば事業	1

全ての事業について、指標達成に対して有効な取組だったと評価しました。

一方で、各事業の検証の結果、今後の事業展開に対する様々な意見が出されました。指標に対する取組の有効性の判断には、これらの意見が、各事業において十分検討され、より大きな成果につながることへの期待が込められています。

この提言書が、今後の総合戦略の推進及び見直しを図る際に最大限尊重され、戸田市の地方創生の実現に向けて、より良い事業展開に生かされるよう望みます。

¹ 各事業において設定された指標の達成に対し、取組内容が有効であったか評価。

【選択肢】 1：指標達成に対して有効であった。 2：指標達成に対して有効とは言えない。

＜参 考 資 料＞

1 戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議要綱

戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議要綱

平成28年10月17日市長決裁

(設置)

第1条 戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）に係る施策や事業等の効果を検証し、総合戦略の推進及び見直しを行うため、戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議（以下「検証会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 検証会議は、次に掲げる事項について意見交換を行い、市長に結果を報告する。

- (1) 総合戦略に係る施策や事業等の効果検証に関すること
- (2) 総合戦略の推進及び見直しに関すること
- (3) その他総合戦略の効果検証及び推進に関し必要な事項

(組織)

第3条 検証会議は、委員8名以内で組織し、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 市民
- (2) まちづくりに係る団体等の関係者
- (3) 産業関係者
- (4) 学識経験者
- (5) 金融関係者
- (6) その他市長が必要と認めた者

(任期)

第4条 委員の任期は、依頼の日から当該年度の末日までとし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 検証会議に会長及び副会長を置く。

- 2 会長は委員の互選によるものとし、副会長は会長が指名するものとする。
- 3 会長は、会務を総理し、検証会議を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検証会議の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、その議長となる。ただし、会長が選任されるまでの間は、市長が招集し、総務部経営企画課が進行するものとする。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 市長又は会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対し会議への出席を求め、

意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 検証会議の庶務は、総務部経営企画課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年10月17日から施行する。

2 平成30年度戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議委員名簿

(敬称略)

No	区分	所属団体等	氏名
1	市民委員	一級建築士 マンション管理士	大久保 浩子
2	まちづくりに係る団体等の関係者	エンジェル・すまいる 代表	清水 真由美
3	産業関係者	第4期戸田市中心企業振興会議委員 中小企業診断士	坂上 成人
4	学識経験者	明治大学経営学部 教授	藤江 昌嗣 (会長)
5	金融関係者	埼玉りそな銀行戸田支店 支店長	木村 文彦 (副会長)

3 会議開催日

平成30年8月23日 (木)